

成果の説明書

(氏名)佐藤 敦子	(学部) 経済学部 国際学科
1 重要事項	
【研究】	
① 科研費 基盤研究 (C)「芸術文化団体の社会的インパクト評価とファンドレイジングの学際的研究」の研究に取り組んでいる。文化芸術団体が社会課題解決への取り組みとして行いうる成果報酬型事業の展開方法についてフィールドリサーチを継続している。コロナ禍の影響で、海外での調査を行うことが出来なくなり、国内での調査を中心に行うべく、計画を変更した。	
② 個人投資家の ESG 投資に関するリテラシーに関する意識調査を行うべく、三井住友銀行の協力を仰ぎ、パイロット調査を実施した。共同研究者の諸先生方と共に研究成果の発信を行うべく取り組んでいる。	
【教育】	
① コロナ禍の影響により、例年のような実務家の来学による対面形式の講演会を行えなかったため、オンライン形式での講演をゼミ生や担当講義科目履修生向けに行った。具体的には次の3件である。	
a) (株) Property Innovation Consulting 山崎氏「国際サプライチェーン・マネジメントの現状と展望」(2020年7月9日)	
b) 第一生命保険(株) 銭谷氏「ESG投資における異文化理解の必要性」(2020年11月26日)	
c) SMBC日興証券(株) 増田氏「私の異文化体験」(2020年12月10日)	
② 演習Ⅰにおけるゼミ活動の一環として、マイナビ社主催「キャリアインカレ」というビジネス・アイデア・コンテストに参加。令和2年度は、惜しくも1次審査(書類審査)で敗退となったが、ゼミ生はコロナ禍による制約の中、オンライン上でのチーム内コミュニケーションを積極的に行い、プレゼンテーションの作成に取り組んだ(2020年9~11月)	
③ 基礎演習、演習Ⅰのいずれにおいても、令和2年度は海外フィールドワークを行える状況ではなかった。また、令和2年度前期は演習をオンラインのみに限定、後期からは対面授業の形式で行うことが出来るようになったが、例年に比べると制約が多い中での活動となった。夏季休暇中のゼミ合宿も行うことが出来なかったが、それに変わる活動として、3,4年生合同卒業研究中間発表会を行った。また、2021年1月には4年生の卒業論文発表会をゼミ内で行い、2年生、3年生も聴講し、活発な質疑応答が展開された。	
2 その他の事項	
① 高崎経済大学 学生支援委員 (2018年4月~)	
② 群馬県庁 景気動向指数アドバイザー委員 (2017年5月~)	
③ 川崎市 文化芸術振興会議委員 (2018年2月~)	
④ 株式会社ディー・エヌ・エー 社外監査役 (2019年6月~)	
⑤ 公益財団法人鼓童文化財団 理事 (2019年4月~)	

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、令和2年度に引き続き「社会的インパクト評価」「ESGファイナンス」「文化芸術団体の社会課題解決」の研究に取り組む所存である。科研費の研究課題は4年目となるが、これまでの調査結果のとりまとめを行う時間確保に喫緊の課題であり、鋭意取り組みたい。

教育面では、コロナ禍の影響により、学生の学外活動が著しく制限される状況は令和3年度も継続の可能性があるが、学生の学習効果および国際的素養を高めるべく、様々な学習機会創出に鋭意取り組む所存である。

ゼミ演習以外の担当講義科目について、国際経営、国際マーケティング、異文化経営それぞれの最新の学術的知見を盛り込みながら、学生の興味関心を高めるような教材提供に取り組む。また、学生の積極的な授業参加およびアクティブラーニングを意識して、一方通行の講義をするのではなく、学生参加型の講義運営に努める所存である。